

教育だより (教育委員会)

普段の生活学校

～海士中学校2年生16名

今年も10月14日～20日の6泊7日という日程で「普段の生活学校」を行いました。この取組みは中央公民館主催で、中学校で実施されている職場体験学習と連携して行われます。

生徒は隠岐開発総合センターに宿泊し、炊事・洗濯・掃除など身の回りのことを自分達で行い、職場体験先へ通うという生活を送りました。



協力して手際よく作りました。

食事作りでは、ふるさと教育の一環として魚捌き教室も開催し、アジを3枚におろす体験もしました。刺身やフライにしておいしくいただきました。どの子も講師の澤井さんの話をよく聞き、上手に捌くことができました。

生徒達は疲れてはいるものの、協力して食事づくりや洗濯に取り組み、毎日30分ほどのゆとりの時間を生み出すことができました。その時間を利用して、楽しそうに朝食の下準備をする姿が印象的でした。

職場体験では、厳しくも温かい関わりをしていただいたようで、事業所の方を招待しての交流夕食会では、楽しいひと時を過ごしました。

な感とこのりこた。話へかるしまし。世方しすき。おたを表す。←っ謝発が



ひく、最えをなで迎。邪もなを。風とこん日た。→くみ終ま

今回の事業には、島根大学教育学部から4年生4名が来てくださり、午前中は海士中学校で学習支援等を、夕方から朝にかけては生活学校で生活指導等をしていただきました。

多感な時期ではありますが、素直で前向きに取り組み、見ている側が気持ちよくなるくらいよく食べる姿に、主催者側も多くのことを学ぶことができました。中学校生活が充実したものになるようにスタッフ一同応援しています。

(地域共育課 社会教育主事 藤野 幹雄)

シリーズ 元気印！海士の学校

その⑧ 授業改善めざし、先生も勉強

学校の先生方は、よりよい授業を行うために毎日頑張っています。しかし、悩むことや壁にぶつかるとも数多くあります。これに対応するために、保育園から高校までの連携教育の一環として、町内小中学校全先生方による研修会を開きました。今回はこの研修会の模様をお知らせします。

研修会は2部構成で行われました。第1部は小学校の全先生と中学校の数学担当の先生で小学校の算数の授業の在り方について研修しました。島根県教育センターの方が指導者役となり、町内の先生方が児童役になって、授業形式で研修が行われました。実際に問題を解いたり発表しあったりする活動を通して、指導のポイントを探っていくという内容でした。

学ぶ立場になって初めて気づくこともあり、算数という学習を通して、授業で大切にしなければならぬことに気づくことができました。



第2部は中学校の先生方も加わり、教職経験年数ごとにグループ協議を行いました。テーマは、「今、授業改善上一番悩んでいること」とし、授業を行う上での悩みや疑問を出し合い、それについて意見交換するという内容です。

口に出して語ることで、授業改善のためのヒントが得られたり、自分もやってみようという意欲が高まったりします。聞いたことをもとに明日からでも実践していきたいという声も聞かれました。

教育センターの方からも、海士の先生は熱心だとお褒めの言葉をいただきました。

この研修会をきつかけに、子どもたちのやる気を引き出す授業、わかる授業をめざして、先生方がますますがんばっていかれることを願っています。

(教育総務課 指導主事 松浦 和之)



※ふるさと講座は今回はお休みです



集落支援通信 09
14地区にお邪魔します。

**保々見地区で大忘年会が
催されました。**

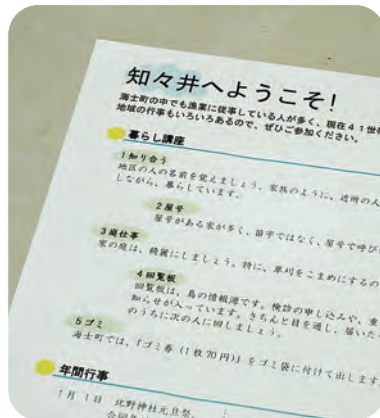
11月25日に保々見地区で大忘年会が催されました。保々見区民の方が約45名参加し、地区公民館での開催となりました。この大忘年会は、保々見の男性が中心となつて、区民のみなさんをおもてなしするという企画です。集落支援員は大忘年会の企画づくりを支援しました。

大忘年会の当日は、男性が早朝から集まり、お鍋（お野菜はもちろん保々見産です）や、おにぎり、イカの煮付けなどを準備。区長さんの挨拶とともに忘年会が始まると、にぎやかな団らの声。会の後半では、くじ引きなどのイベントもあり大盛況の一日となりました。

保々見の男性による忘年会を通じて、地区の多世代交流を支援することができました。

知々井区で地図を配布。

知々井区は小さな地区ですが、区の行事にも多くの住民が参加し、支え合つて生活しています。そんな知々井に、今年度町営住宅が新しく建設されました。そこで集落支援員は、新しく区民になる移住者向けに知々井の基本情報をお知らせするチラシの制作を



支援しました。区の行事や暮らしの講座、役員紹介など、知つておくと便利な基本情報をまとめています。

また、知々井区は防災にも力を入れています。「公助」「共助」「自助」の3つの視点で独自の避難体制作りをしており、集落支援員は避難所マップ制作の支援もしました。

知々井区の、区民の力でできる体制作りがとても参考になりました。集落支援員も無理のある活動ではなく、各地区に適した活動をこれからも支援していきたいと考えています。



日々の集落支援員の活動を、インターネットで発信！
Facebook ページ更新中!ぜひご覧下さい。
www.facebook.com/ama14chiku